

第131回運輸政策コロキウム開催のご案内

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび運輸総合研究所におきまして、下記のとおり「第131回運輸政策コロキウム」を開催致します。つきましては、ご関心をお持ちの皆様のご出席を賜りますよう、ご案内申し上げます。

また、ご関心をお持ちの方々に広くご周知頂ければ幸いです。

会場の都合上、入場者数には限りがございますので、大変恐縮ですが、申込み専用 URL からお申込みくださいますようお願い申し上げます。

敬具

記

日 時：2019年7月31日（水）
18：00～20：00（開場17：30）軽食をご用意いたします。

会 場：運輸総合研究所 2階 大会議室（日比谷線神谷町駅徒歩1分）

テ ー マ：「北米における都市鉄道整備と沿線開発」

講 師：宮本 大輔
（ワシントン国際問題研究所研究員）



土屋 知省
（前ワシントン国際問題研究所長）



コメンテータ：日比野 直彦
（政策研究大学院大学 准教授）



概要：北米においては、豊富な土地や道路整備等を背景に、自動車に依存した都市が形成されるとともに、公共交通は衰退の道を辿ってきた。しかし、1980年代に至り、都市のサステナビリティ、交通渋滞対策などの見地から、鉄道など公共交通志向型の都市開発（TOD:Transit-Oriented Development）が提唱され、実践に移されている。また、TODの一環として、開発利益を交通整備財源として活用する制度(Value Capture)も様々に試みられている。

他方、日本の都市部の鉄道については、民間鉄道事業者による建設・運営を基本としつつ、地下鉄については公的主体による建設・運営が行われ、また、近年においては上下分離方式を活用したPPP方式による鉄道整備が進められてきたが、昨今は、ネットワークがかなり成熟し、また国・地方の財政が厳しくなる中、鉄道の整備が停滞気味である。

本コロキウムでは、①北米におけるTOD等の成功事例であるデンバー及びバンクーバーの事例、②我が国の鉄道事業者も参加する当研究所と米国公共交通協会(American Public Transportation Association, APTA)との共催セッションの状況、③車両基地上空を都市開発に活用したニューヨーク・ハドソンヤードの事例を紹介しながら、今後の都市鉄道整備と沿線開発について議論する。

参加費：1,000円

お申込み：下記のURLよりお申し込みください

<https://krs.bz/jterc/m/collo131>

(申込期限：7月26日(金)まで)



運輸総合研究所は日本財団の助成を受けて活動を行っております。

Supported by  日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

お問い合わせ：

一般財団法人運輸総合研究所 国際部（担当：山脇）

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-18-19（虎ノ門マリビル）

TEL：03-5470-8420 FAX：03-5470-8419

E-mail：collo@jterc.or.jp

HP：<http://www.jterc.or.jp>